

国立近現代建築資料館が所蔵するル・コルビュジェ設計の 国立西洋美術館の図面群について

[資料紹介]

加藤道夫*, 加藤直子**, 寺内朋子***

On the Drawings of the National Museum of Western Art Designed by Le Corbusier in NAMA Archives

Kato Michio, Kato Naoko, Terauchi Tomoko

NAMA (National Archives of Modern Architecture) has several drawings on NMWA (The National Museum of Western Art). The purpose of this report is to clarify the followings on them; 1) their making process, 2) their differences from the drawings sent from Atelier Le Corbusier, 3) their relations to the original drawings in FLC (Le Corbusier Foundation). The result is as follows: 1) The drawings of NAMA were only 9 drawings corresponding to the drawings sent from Atelier Le Corbusier. 2) They were not original drawings sent from Atelier Le Corbusier, but their handmade copies in Japan (Junzo Sakakura architects and engineers). 3) They come to be evidences of the design process of NMWA in Japan.

キーワード：国立西洋美術館、国立近現代建築資料館、ル・コルビュジェ、建築設計図面、複製

1. はじめに

国立近現代建築資料館（以下「資料館」）は、坂倉家より寄贈の坂倉準三建築研究所から引き継がれた図面群を所蔵している（2014年12月贈与契約締結）。その中に、ル・コルビュジェ事務所（Atelier Le Corbusier）固有の図面タイトルが記された国立西洋美術館（以下「西洋美術館」）の建築設計図面が存在する。この図面タイトルはプロジェクト名を示すアルファベットと数字からなり、1920年代半ばからル・コルビュジェ事務所においてオーソライズされた図面に記されるようになった。当初は3桁であった数字が後に4桁に変更された。西洋美術館ではMu.TO.と4桁の数字から構成される（以下「Mu.TO. ****」と表記）。

ただし、資料館が所蔵する（以下「資料館蔵」）西洋美術館の図面が1) どのような経緯で制作され、2) ル・コルビュジェ事務所（Atelier Le Corbusier）から送付された建築図面とどのような関係にあるのか、3) さらにいえば、送付図面の元になったル・コルビュジェ財団（Fondation Le Corbusier）所蔵の図面（原図）とどのような関係にあるのかについては必ずしも明確ではない。

本報告は、この点を明確化するため、現時点で追える範囲で調査を行い、その結果をまとめたものである。調査方法は以下の通りである。

1) 複数の先行研究を参照しつつ、ル・コルビュジェ事務所から日本に送付された図面群の全容を整理する。

併せて、上記送付図面とその原図にあたるル・コルビュジェ財団所蔵の図面との対応関係を明らかにする。

2) 資料館蔵の図面と上記の送付図面との関係、具体的には前者が後者と同一なのか、あるいは前者が後者の複製であるのか、だとするならどのような手段で複製されたのかについて検討する。

2. 日本に送付された図面群

ル・コルビュジェ事務所での原図にあたる図面の作成、日本への送付の経緯、その内容については、寺島（2009）が最も詳しく、加藤（2017）は、巻末に収められた福田作成の年表に記されたメゾニエの図面も含めて、送付図面についての整理を行っている。

その他、付け加えるなら、藤木（2011）には、日本に送付された図面がどのようなものであり、どのように加工されて利用されたかについての記述がある。千代（2016）および寺島・千代（2017）には、ル・コルビュジェ財団所蔵（以下「財団蔵」）の西洋美術館図面に加えて、西洋美術館実現に関連する書簡撰に加えて1956年7月10日付の「東京、西洋美術館の建設に関するル・コルビュジェの注釈（note）」（以下「注釈」）が掲載されている。

本資料紹介では、資料館蔵の図面と比較するため、日本に送付された図面について、a) その送付日時、b) その形式（原図或いは青焼き図面〔青図〕¹⁾）、c) 送付部数に着

*国立近現代建築資料館 主任建築資料調査官、工学博士

**国立近現代建築資料館 研究補佐員、博士（学術）

***国立近現代建築資料館 研究補佐員、修士（工学）

目して、重複を恐れず再整理を行った。その結果は以下の通りである。

寺島によれば、図面送付は基本設計図1回と実施設計図3回であり、その内容を整理すると以下のようになる(寺島, 2009, p. 148)。

以下、送付はフランスにおける送付日、受領は日本における受領日をさす。

1) 基本設計図送付

1956年7月18日、在仏西村大使がル・コルビュジエ

より基本設計図3枚 (Mu. TO. 5400–5402) を受け取り、日本へ送付 (8月9日受領)²。

2) 実施設計図送付

a. 1957年3月30日、在仏古垣大使がル・コルビュジエより実施設計図9枚 (Mu. TO. 5481–5489) [平面図6枚と断面図3枚] の青焼き図面 (青図) 2部を受け取り、日本へ送付。4月10日文部省受領 ([] 内筆者挿入)。

b. 1957年5月9日、図面11枚 (Mu. TO. 5581–5589)

表1 日本に送付された図面群

図面タイトル	財団対応図面	日付 (作成年月日)	図面名称/備考
Mu.TO. 5400	FLC24615	1956年7月9日	文化センター全体配置図 (plan d'ensemble)
Mu.TO. 5401	FLC24616A	1956年7月9日	第3, 4, 4bis, 5層平面図
Mu.TO. 5402	FLC24617A	1956年7月9日	断面図AA, BB
Mu.TO. 5481	FLC24618A	1957年3月26日	第2層平面図/ グランドレベル
Mu.TO. 5482	FLC24619A	1957年3月26日	第3層平面図/ 展示ギャラリーレベル
Mu.TO. 5483	FLC24621A	1957年3月26日	第4層平面図/ 中3階レベル
Mu.TO. 5484	FLC24622A	1957年3月26日	第5層平面図/ 屋上レベル
Mu.TO. 5485	FLC24623	1957年3月26日	南東立面図
Mu.TO. 5486	FLC24624	1957年3月26日	南西立面図
Mu.TO. 5487	FLC24625	1957年3月26日	標準断面図 (coupe standard) / 展示ギャラリー
Mu.TO. 5488	FLC24625	1957年3月26日	19世紀大ホール 断面図
Mu.TO. 5489	FLC24627	1957年3月26日	19世紀大ホール 断面図
Mu.TO. 5509	FLC24628	1957年5月2日	北東立面図
Mu.TO. 5510	FLC24629	1957年5月2日	北西立面図
Mu.TO. 5526	FLC24630	1957年6月13日	外壁施工例 (Variante pour la construction des facades)

に加えて、Mu. TO. 5509-5510 [立面図] の青焼き図面 (青図) 2部を送付。5月29日に受領 ([] 内筆者挿入)。

- c. 1957年6月8日、在仏大使が9枚の図面 (Mu. TO. 5481-5487、5509-5510) 図面1部と付属説明書2部を受け取り、6月14日送付 (6月26日受領)。加えて巻末の年表には下記の設備関連、ファサードの詳細について記した図の送付が記されている。「1957年6月14日 [ル・コルビュジエ事務所の担当者

の] メゾニエ、吉阪へ照明、ガラスパネル、空調設備等の詳細及びファサードに関する図面 (Mu. TO. 5526) を送付 [受領日の記載なし] ([] 内筆者挿入)。

以上の送付図面については、対応する原図が財団に所蔵されている。それぞれの財団図面番号と日付 (作成年月日) を示すと表1のようになる。

次に当時の坂倉事務所の所員で西洋美術館の設計を担当した藤木による情報を加える。それによれば、

表2 資料館蔵の図面群

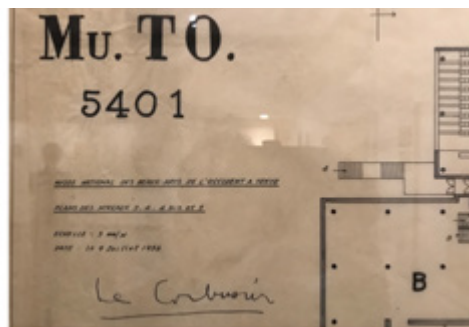
図面タイトル	資料館蔵図面	建築資料館図面番号 (仮)	財団対応図面	日付 (作成年月日)	図面名称 / 備考
Mu.TO. 5400		501-02-056	FLC24615	1956年7月9日	文化センター全体配置図 (plan d'ensemble)
Mu.TO. 5401		501-02-055	FLC24616A	1956年7月9日	第3, 4, 4bis, 5層平面図
Mu.TO. 5402		501-02-054	FLC24617A	1956年7月9日	断面図AA, BB
Mu.TO. 5481		501-02-045	FLC24618A	1957年3月26日	第2層平面図 / グランドレベル
Mu.TO. 5482		501-02-043	FLC24619A	1957年3月26日	第3層平面図 / 展示ギャラリーレベル
Mu.TO. 5483		501-02-044	FLC24621A	1957年3月26日	第4層平面図 / 中3階レベル
Mu.TO. 5484		501-02-042	FLC24622A	1957年3月26日	第5層平面図 / 屋上レベル
Mu.TO. 5486		501-02-052	FLC24624	1957年3月26日	南西立面図
Mu.TO. 5487		501-02-053	FLC24625	1957年3月26日	標準断面図 (coupe standard) / 展示ギャラリー



図1 ル・コルビュジェ事務所で使用されたステンシル・プレート（複製）

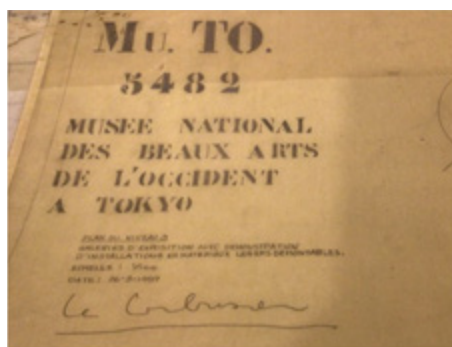


ル・コルビュジェ財団蔵
FLC24616A（部分）



資料館蔵（坂倉家より寄贈）
501-02-055（部分）

図2 財団蔵と資料館蔵の図面の比較（Mu. TO. 5401 部分）



501-02-043（部分）



001-02-042（部分）

資料館蔵（坂倉家より寄贈）の実施設計図（部分）

図3 資料館蔵の実施設計図（Mu. TO. 5482, 5484 部分）

1956年7月に「到着した(ママ)」した「3枚の図面」は「青写真(青図)」であり、「トレースされ、焼き増し後、関係者にくばられた」と記されている(藤木, 2011, p. 124)。これは、上記1)の基本設計図に相当すると考えて間違いない。

また、実施設計図(藤木は「基本設計」と記しているが、ここでは寺島にならって「実施設計」とする)については、「基本設計(ママ)は1957年4月から6月にかけて到着。図面11枚、縦ダクト内合わせ図、設計説明書(A4変形)、第2原図だ」(藤木, 2011, p. 128)と記されている³。これは、その内容が図面11枚に加えて設計説明書を含むことから、上記の2章2)の実実施設計図送付におけるb. c. を合わせたものに相当すると考えられる。

以上の送付図面についてまとめると、以下のようになる。

- 1) ル・コルビュジェ事務所から送付された図面は、コルビュジェ事務所の図面タイトル Mu. TO. 5400-5402 (作成年月日: 56年7月9日) の基本設計図3枚に加えて、Mu. TO. 5481-5489 (作成年月日: 57年3月26日) 9枚と Mu. TO. 5509, 5510 (作成年月日: 57年5月2日) のそれぞれ北東と北西の立面図2枚、そして Mu. TO. 5526 (作成年月日: 57年6月13日) である。Mu. TO. 5526は単独で送付されただけでなく、書式が著しく異なっており、補足的な図面と考えられる。
- 2) 基本設計図3枚(Mu. TO. 5400-5402)は青焼き図面(青図)1部が送付、実施設計図9枚(Mu. TO. 5481-5489)については青焼き図面(青図)が計4部、Mu. TO. 5509-5510については、青焼き図面(青図)2部が送付されたことになる。
- 3) 別途、1957年6月8日に図面9枚(Mu. TO. 5401-5407, 5409-5510)が1部送付されているが、体裁は詳細不明である。後述の藤木のいう第2原図がこれに当たる可能性がある⁴。

3. 資料館蔵のル・コルビュジェ事務所由来の西洋美術館図面

資料館蔵の図面を調査した結果、ル・コルビュジェ事務所に由来する痕跡をとどめる図面、すなわちル・コルビュジェ事務所固有の図面タイトルと「Le Corbusier」の署名(らしきもの)が記された図面は9枚に限定されることが判明した(表2)。

以上の資料館蔵の図面はすべてトレーシングペーパーに手描きであり、「Le Corbusier」の署名らしきものが記されているため一見すると原図に見える。しかし、調査結果は以下の通りである。

まず第一群の図面(Mu. TO. 5400-5402)について、財団蔵図面との比較調査結果について述べる。

- 1) 資料館蔵の Mu. TO. 5400 から Mu. TO. 5402 の3枚はインキングされた図面であり、図面タイトル(Mu. TO. ****)の記載がいずれも財団固有の書式であるステンシル・プレート(型板)を用いた転写ではなく、手描きの痕跡がある。(図1, 図2)
- 2) 資料館蔵の図面のテキスト部は、斜体の手描き文字で書かれている。対して財団蔵の原図のテキスト部は立体のタイプライターによる印字、もしくはそのカーボンコピーである(図2)。
- 3) 前述のように、日本に送付された図面は青焼き図面(青図)であり(藤木, 2011, p. 124)、日本に送られた原図は存在しない。
- 4) 以上から、資料館蔵の図面はコルビュジェ事務所で作成されたオリジナルの図面ではなく、(日本において)人間の手によってトレースされたものであると判断される。したがって、「Le Corbusier」という署名も精巧なトレースと考えられる。

次に第2群の図面(Mu. TO. 5481から5484, 5486, 5487)についての財団蔵図面との比較結果について述べる。これについては、青焼き図面(青図)が送付されている(寺島, 2009, p. 148)。付言するなら、藤木は第2群の図面群について「第2原図」と記していた(藤木, 2011, p. 128)。

対して資料館蔵の図面はトレーシングペーパーへの手描きトレースである。「Mu. TO. ****」のボシェ(黒塗り)部分もステンシル転写ではなく、鉛筆描きの痕跡が認められる。また、財団蔵におけるタイプ原稿部分については、斜体だけでなく立体で精巧にトレースされたものも存在する(図3)。

したがって、資料館蔵図面は藤木が記載した第2原図とは考えられない。寺島が記載した青焼き図面(青図)か藤木が記載した第2原図のトレースと考えられる。

4. 結論

資料館蔵の「Le Corbusier」の署名らしきものが記された図面群について以下が明らかになった。

- 1) 資料館蔵の図面群は日本に送付された基本設計図3枚(Mu. TO. 5400-5402)と実施設計図9枚(Mu. TO. 5481-5489)の一部6枚(Mu. TO. 5481-5484, 5486, 5487)の計9枚に対応する。
- 2) 上記の基本設計図3枚に対応する図面については、藤木が記載した「トレースされ」た図面である可能性が高い。

- 3) 1957年の4月から6月に送付された実施設計図について、資料館蔵図面には「第2原図」は存在しない。
- 4) 以上から資料館蔵の図面の中はいずれも日本に送付された図面そのものではなく、ル・コルビュジェの署名やル・コルビュジェ事務所における日付(作成年月日)を含めて人間の手によってトレースされた複製図面であると判断できる。したがって、資料館蔵図面に記載された日付(年月日)は複製図面(資料館蔵図面)の作成年月日を示すものではない。
- 5) 資料館蔵の図面は、坂倉事務所における西洋美術館の設計過程において、人間の手による図面複製が行われたという当時の設計作業工程を示す具体的な証拠となっている。

注

- 1 寺島(2009)は「青焼き図面」と表記している。ただし、寺島のいう「青焼き図面」は陰画である。資料館では青地に白の線図(陰画)を「青図」、白地に青の線図(陽画)を「青焼き図」と区別しているの、青焼き図面(青図)と表記する。
- 2 寺島・福田は図面送付について「7月18日、在仏西村大使、ル・コルビュジェより基本設計図3枚(Mu. To. 5400-5402)を受け取り、日本に送付」と記している(寺島, 2009, p. 148)。また、送付された図面(Mu. TO. 5400-5402)には1956年7月9日の日付が記されている。そのうちMu. TO. 5400は『全作品集1952-1957』に掲載された(ボジガー, 1997, p. 166)。また、同図面の送付に添付された1956年7月10日付の「東京、西洋美術館の建設に関するル・コルビュジェの注釈(note)」(以下「注釈」)が存在し、そこには以下のように記される。「25枚の図版[planches]からなるCIAMグリッド[la grille CIAM]と数葉の計画図[plans]の形で提出された計画[projet]は、1955年12月からのすべての検討を示している」(筆者訳)。注釈の「数葉の計画図」が送付図面に対応する。
- 3 寺島(2009)には「第2原図」という記載はない。本稿の2章日本に送付された図面群、2) 実施設計図送付a. b.にあるように4月、5月受領の図面は「青焼き図面(青図)」としている。「青焼き図面(青図)」という明示的な記載がないのはc.にある6月受領の図面のみである。
- 4 ここでの「基本設計」とは図面タイトルから寺島(2009)における「実施設計図」にあたる。すなわち、送付された図面は青焼き図面(青図)か第2原図ということになる。

参考文献 (発行年代順)

- ボジガー, W. 編: 〈ル・コルビュジェ〉全作品集1946-1952, A.D.A. EDITA Tokyo, 1978 (Boesiger, W. ed.: *Le Corbusier Œuvre complète 1946-1952*, Les Éditions d'Architecture (Artemis), Zurich, 1953の邦訳版)
- ボジガー, W. 編: 〈ル・コルビュジェ〉と彼のセーヴル街35番地のアトリエ全作品集1952-1957, A.D.A. EDITA Tokyo, 1977 (Boesiger, W. ed.: *Le Corbusier Œuvre complète 1952-1957*, Les Éditions d'Architecture (Artemis), Zurich, 1957の邦訳版)
- 寺島洋子編: 開館50周年記念ル・コルビュジェと国立西洋美術館, 国立西洋美術館／(財) 西洋美術振興財団, 2009
- 藤本忠善: ル・コルビュジェの国立西洋美術館, 鹿島出版会, 2011(第2刷2016)
- 文化庁監修: ル・コルビュジェ×日本 国立西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に, 文化庁, 2015
- Le Corbusier Plans Online, Fondation Le Corbusier et Echelle-1, 2015
- 千代章一郎: ル・コルビュジェ図面撰集—美術館編一, 中央公論美術出版, 2016
- 加藤道夫: コーラとしての建築—ル・コルビュジェの《国立西洋美術館》一, 図学研究, 51 (152), pp. 6-12, 2017(初出: 日本図学会2016年度春季大会講演論文集)
- 寺島洋子, 千代章一郎編: ル・コルビュジェの芸術空間—国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡—, 国立西洋美術館／(財) 西洋美術振興財団, 2017
- 山名善之: 世界遺産 ル・コルビュジェ作品群—国立西洋美術館を含む17作品登録までの軌跡—, ToTo出版, 2018

謝辞

本報告作成にあたっては、財団蔵のタイプ打ちを伴う大判図面に関して、千代章一郎氏からタイプ打ちが図面に直接なされているという貴重な証言とその制作法についての助言をいただいた。ここに感謝の意を表する。

(2021年5月9日原稿受理)